

ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ（牽引型）

(実施期間：平成 28～令和 3 年度)

代表機関：大阪大学（総括責任者：西尾 章治郎）

共同実施機関：医薬基盤・健康・栄養研究所、ダイキン工業株式会社

取組の概要

【連携した取組】

①女性研究者育成：女性研究者をプロジェクトリーダーとする分野融合的共同研究を創出する。新設する共同型メンター制度、インターンシップ、大学での学び直しにより自然科学系分野の女性研究者を育成する。

②両立支援：大阪大学の両立支援事業を共同実施機関の研究者に開放し、共同型研究支援員制度を新設する。

③働き方改革：地域に開放するシンポジウム等を共同開催して働き方改革を推進する。

[大阪大学]

大学留保ポスト等を活用した本部・部局連携型女性研究者比率向上システムを構築する。クロスアポイントメントにより女性研究者を学内外で循環的に育成する。

[医薬健康研]

理事長直轄の男女共同参画に関する委員会を設置し、両立支援や働き方改革を加速する。

[ダイキン工業]

技術系女性社員の女性管理職を増やすための育成の仕掛けとして、女性を登用するポストである女性フィーダーポジションを定め、女性社員を計画的に育成する。

(1) 評価結果

総合評価	目標達成度	取組	取組の成果	実施体制	実施期間終了後の取組の継続性・発展性
S	a	s	s	s	s

総合評価：S（所期の計画を超えた取組が行われている）

(2) 評価コメント

代表機関の強いリーダーシップと3機関の密接な協力関係を基盤に、「産学クロスアポイントメント」、「双方向クロスアポイントメント」、「女性研究者をリーダーとする産学共同研究支援」等の取組を強力に推進し、研究成果の創出と女性研究者のキャリアアップを促進する仕組みを構築、定着させた。取組の成果として、女性研究者の研究業績の向上、上位職階への登用が進み、また、代表機関と共同実施機関のダイキン工業株式会社においては女性研究者数がそれぞれ 213 名、334 名と大幅に増加したことは高く評価できる。さらに、関西圏の産官学 20 機関が参画する「女性研究者循環型育成クラスター」の構築を主導し、当初計画より前倒して実現し、クロスアポイントメント制度を活用し 250 名を超える女性研究者の受け入れと派遣、女性研究者を研究リーダーとする産学共同研究を推進した。連携する 3 機関の女性研究者に留まらず、関西圏の女性研究者の活躍促進を牽引したことは高く評価できる。今後は、3 機関共に、女性上位職を増加させるため

の実効性の高い方策を検討し、成果を挙げることを期待する。

- **目標達成度**：代表機関は女性研究者採用比率、在職比率ともに所期の目標を達成しており評価できる。ダイキン工業株式会社は女性研究者・技術者の採用比率、在職比率ともに目標を達成できなかったものの、女性研究者・技術者の在籍数、採用数共に倍増させた。また、関西圏における女性研究者循環型育成拠点として「女性研究者循環型育成クラスター」を構築する目標は、当初計画より前倒して実現しており評価できる。
- **取組**：「共同型研究支援員制度」、「派遣型保育サービス」、「育休中キャリアアップ支援プログラム」、「産学クロスアポイントメント」、「双方向クロスアポイントメント」、「女性研究者をリーダーとする産学共同研究支援」、理工系学部への女子新入学生に対する「入学支援金制度」、「女性研究者循環型育成クラスター」の構築等、特色ある取組を組織横断的、地域横断的に広く実施したことは高く評価できる。
- **取組の成果**：代表機関とダイキン工業株式会社において、共同研究支援の成果として女性研究者・技術者数が大幅に増加した。代表機関では女性研究者4名が上位職へ昇任、1名が文部科学大臣賞を受賞、女性研究者の論文発表数が大幅に増加し、ダイキン工業株式会社では女性技術者2名が管理職へ昇任しており高く評価できる。さらに、クロスアポイントメント制度の積極的な活用により、代表機関と企業間の女性研究者・技術者の受入れと派遣が飛躍的に増加した。
- **実施体制**：3機関の連携を図るため各機関の総括責任者からなる「大阪男女協働推進連携協議会」を設置するとともに、代表機関の学長のリーダーシップの下、関西圏の約30機関が参加する「大阪男女協働推進連携会議」が創設され、当該連携会議を基盤として「女性研究者循環型育成クラスター」が形成されたことは高く評価できる。
- **実施期間終了後の取組の継続性・発展性**：3機関共に、本事業の継続に係る指針を中長期計画またはこれに相当する計画に明確に示しており、事業の継続性・発展性が期待できる。さらに、代表機関は、自主財源のみならず、ダイキン工業株式会社等の企業と包括連携契約を締結し事業継続のための資金を確保するとともに、「女性研究者循環型育成クラスター」に参画する機関を増加させる方針や女性研究者活躍促進、女性研究者の次世代育成に積極的に取り組む方針を示しており高く評価できる。